

「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーン
緊急プレスリリース No. 5 2005年9月16日



アフリカ・途上国から多くの NGO が 国連ワールド・サミットに向けた市民社会のアクションに参加

サミット最終日の 16 日朝、国連本部にほど近いダグ・ハマーショルド・プラザで、世界の貧困解消を訴える地球規模の NGO ネットワークである GCAP (Global Call to Action against Poverty) 主催のアクションが行われました。

このアクションは、世界がミレニアム開発目標の実現と貧困の解消を目指して一丸となる機会であった今回の国連サミットが、結局のところ、十分な成果を上げられずに終わりそうであることについて、これを風刺し、抗議するために行われたものです。アクションでは、「ミレニアム開発目標」という看板のついたサッカーゴールの前に、世界のリーダーに扮した男性たちが並び、女性や子どもたちがゴールをめざして蹴るサッカーボールがゴールに入るのを阻止する、というパフォーマンスが行われました。これは、世界の人々が達成に向けて努力している「ミレニアム開発目標」に、世界の指導者たちが実際のところ消極的である、ということ風刺したパフォーマンスです。AP 通信をはじめ、世界の多くのテレビ局やマスメディアが、このイベントを熱心に取材し、参加した NGO のメンバーたちにインタビューを行っていました。

ゴールキーパーの一人に扮したウガンダのハッピー・ジェームズさん（「サステナビリティ・ウォッチ」のメンバー）は「世界のリーダーは強いね。『ミレニアム開発目標？昔そんなものもあったな。まあ、忘れてくれ』という態度だから」と肩をすくめていました。

■アフリカ・アジア・ラテンアメリカから多くの NGO が参加

今回の国連サミットには、GCAP の呼びかけで世界から多くの人々が集まりましたが、特に目立ったのはアフリカからの参加者たちでした。アフリカの多くの NGO が「アフリカ・コーカス」というグループを組織し、ケニア、ナイジェリア、南アフリカをはじめ、セネガル、ニジェールなどからも NGO のメンバーたちが参加しました。アフリカからの参加者たちに、日本と先進国の市民や政府に対するメッセージをもらいました。

ニジェールの労働組合連合の事務局長 シディベ・スーフーさん (Mr. Sidibe Ssoufou) : 「日本政府の支援にはとても感謝しています。ただ、現在、ニジェールと日本の関係は政府間に限られており、市民社会同士の関係は十分ではありません。市民や NGO レベルでの関係の強化が進めば大変良いのではないかと思います。今後に期待しています。」

ウガンダの国際 NGO 「サステナビリティ・ウォッチ」のハッピー・ジェームズさん (Mr. Happy James) : 「ウガンダの人々、アフリカの人々はすすんで貧困を作り出したわけではありません。ところが、いつしか、自分たちが貧困のうちに沈んでいることに気づいたのです。日本の政府・市民の皆さんは、苦しんでいる人々を助けるために貢献することが、何かあるはずですよ」

セネガルのオックスファム事務所職員ムタニ・ムリさん (Ms. Muthani Muri) : 「強制的な経済自由化政策は、いかなる意味でも平等をもたらしません。すべての発展途上国、とくにアフリカは、自分たちの文脈において何が機能するのかをためし、決定するための政策的な空間を必要としています。世界システムに統合されるということが、これすなわち永遠の周縁化を意味するということであっていいはずがありません。」

ナイジェリア南東部で女性のエンパワーメントに取り組む NGO 「ガールズ・パワー・イニシアティブ」のベネ・マドゥナグさん (Ms. Bene Madunagu) : 「日本や他の先進国は、途上国の貧困を削減するために、政府開発援助 (ODA) を増額することができる立場にあります。HIV/AIDS などを含め、アフリカの問題の多くは、貧困が根源にあり、貧困をなくすための包括的で分野横断的な取り組みが必要です。政府も NGO も連携して、二国間でも、地球規模でも、今こそ連携を持って動くべきなのです。」

- 本件プレスリリースに関する問い合わせは「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーン ニューヨーク派遣員の稲場雅紀まで：メール masaki.inaba@gmail.com, 携帯 347-200-9451
- GCAP への問い合わせは：Giala Gaynor 646-331-6982, Nicky Wimble 858-205-8721 Kate Norgrove 858-205-8734 まで